

様式第9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
芳賀地域	真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町	平成26年度から30年度	平成26年度から30年度

1 目標の達成状況  
(ごみ処理)

指 標		現状 (割合※1) (平成24年度)	目標 (割合※1) (令和元年度)	実績 (割合※1) (令和元年度)	実績/目標	
排出量	事業系	総排出量①	— トン	10,364 トン	9,429 トン	91.0%
		総排出量② (し尿汚泥等除く)	7,496 トン	7,314 トン (-2.4%)	7,524 トン (0.4%)	102.9%
		1事業所当たりの排出量①	— トン/事業所	1.51 トン/事業所	1.46 トン/事業所	96.7%
		1事業所当たりの排出量②	1.09 トン/事業所	1.03 トン/事業所 (-5.5%)	1.15 トン/事業所 (5.5%)	111.7%
	家庭系	総排出量	32,079 トン	28,394 トン (-11.5%)	28,867 トン (-10.0%)	101.7%
		1人当たりの排出量	176.2 kg/人	140.4 kg/人 (-20.3%)	163.9 kg/人 (-7.0%)	116.7%
	自家処理量	734 トン	770 トン (4.9%)	663 トン (-9.7%)	86.1%	
	合計	排出量①	— トン	39,528 トン	38,959 トン	98.6%
排出量② (し尿汚泥等除く)		40,309 トン	36,478 トン (-9.5%)	37,054 トン (-8.1%)	101.6%	
再生利用量①	直接資源化量	— トン(-)	7,197 トン (18.2%)	5,828 トン (15.0%)	81.0%	
	総資源化量	— トン(-)	11,443 トン (28.4%)	9,311 トン (23.5%)	81.4%	
	熱回収量(年間の発電電力量)	— MWh	6,687 MWh	11,649 MWh	174.2%	
再生利用量② (し尿汚泥等除く)	直接資源化量	5,484 トン(13.6%)	7,197 トン (19.7%)	5,828 トン (15.7%)	81.0%	
	総資源化量	7,934 トン(19.3%)	11,283 トン (30.3%)	9,233 トン (24.4%)	81.8%	
	熱回収量(年間の発電電力量)	— MWh	6,017 MWh	10,953 MWh	182.0%	
減量化量①	中間処理による減量化量	— トン(-)	27,480 トン (69.5%)	28,854 トン (74.1%)	105.0%	
減量化量② (し尿汚泥等除く)	中間処理による減量化量	29,299 トン(72.7%)	24,732 トン (67.8%)	27,117 トン (73.2%)	109.6%	
最終処分量①	埋立最終処分量	— トン(-)	1,395 トン (3.5%)	1,516 トン (3.9%)	108.7%	
最終処分量② (し尿汚泥等除く)	埋立最終処分量	3,815 トン(9.5%)	1,253 トン (3.4%)	1,426 トン (3.8%)	113.8%	
集団回収量	地域での集団資源回収量	1,473 トン(-)	1,560 トン (5.9%)	1,385 トン (-6.0%)	88.8%	

※1 排出量、集団回収量は現状に対する増減割合、直接資源化量・減量化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量(自家処理量を除く)+集団回収量に対する割合を記載。

(生活排水処理)

		平成24年度 実績		令和元年度 目標		令和元年度 実績		実績/目標 (※1)
処理 形態 別 人口	公共下水道	50,296 人	33.4%	57,986 人	39.0%	56,626 人	39.4%	101.0%
	農業集落排水施設	15,620 人	10.4%	15,803 人	10.6%	14,314 人	10.0%	94.3%
	合併処理浄化槽等	45,506 人	30.2%	50,737 人	34.2%	40,875 人	28.5%	83.3%
	未処理人口	39,160 人	26.0%	24,097 人	16.2%	31,708 人	22.1%	136.4%
	合計	150,582 人	100.0%	148,623 人	100.0%	143,523 人	100.0%	
参考 汚水衛生処理率 (※2)		74.0%		83.8%		77.9%		93.0%

※1 構成比の実績/目標を記載。

※2 汚水衛生処理率 = (公共下水道 + 農業集落排水施設 + 合併処理浄化槽等) / 総人口 × 100

		平成24年度 実績	令和元年度 目標	令和元年度 実績	実績/目標
し尿・ 汚泥の 量	汲み取りし尿量	7,351 kL	3,782 kL	5,034 kL	133.1%
	浄化槽汚泥量	19,636 kL	17,359 kL	22,557 kL	129.9%
	農業集落排水汚泥量 (※3)	2,625 kL	2,163 kL	3,018 kL	139.5%
	合計	29,612 kL	23,304 kL	30,609 kL	131.3%

※3 し尿処理施設(芳賀地区広域行政事務組合)で処理している量

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制・再利用・再生利用等に関する施策	有料化	家庭系もえるごみの有料袋制	構成市町 芳賀郡中部環境衛生事務組合	新施設の稼働に合わせ、真岡市においても家庭系のもえるごみの有料化(有料袋)を実施することにより、発生抑制及び焼却対象ごみの減量化を図っていく。	平成26年度から 平成30年度	【真岡市】 平成26年度より家庭系のもえるごみの有料化を実施。 (50円:1袋45L) 【益子町・茂木町・市貝町・芳賀町】 家庭系のもえるごみの有料化を引き続き実施。 (50円:1袋45L)
		家庭系ごみの有料化対象範囲の拡大	構成市町 芳賀郡中部環境衛生事務組合	ステーションに出すことができる家庭系ごみの有料化対象範囲の拡大について、今後、検討・導入していく。	平成26年度から 平成30年度	ごみ処理担当者会議等で、有料化対象範囲(処理困難物や粗大ごみ等)について検討を行った。
		家庭系ごみの自己持込の有料化	構成市町 芳賀広域	新施設に自己搬入される全ての家庭系ごみを有料化することにより、発生抑制および焼却対象ごみの減量化を図っていく。	平成26年度から 平成30年度	平成26年度より自己搬入される全ての家庭系ごみを有料化することにより、発生抑制および焼却対象ごみの減量化を図っている。(100円/10kg)
		事業系ごみの有料化	構成市町 芳賀広域	新施設においても、有料化(200/10kg)を実施し、事業系ごみの発生抑制を図っていく。	平成26年度から 平成30年度	事業系一般廃棄物について、有料化を実施し事業系ごみの発生の抑制を図っている。(200円/10kg)
	環境教育・普及啓発・助成	環境教育	構成市町 芳賀広域	説明会、講習会等(出前講座含む)による環境学習の充実を図っていく。また、新施設に設置する環境学習・啓発機能に関するコーナーにおいても環境学習を広く進めていく。	平成26年度から 平成30年度	芳賀地区エコステーション施設見学の受入を実施し、ごみ減量の啓発を行っている。 【真岡市】 自治会単位の座談会を実施し、ごみの減量化、資源化の必要性を説明している。 【益子町】 いきいき講座(出前講座)にてごみ減量化について講義を行っている。 【茂木町】 講習会等による環境学習の充実を図っている。
		普及啓発	構成市町 芳賀広域	広報誌やホームページ、イベント等でごみ減量化、分別の徹底、リサイクル製品の利用促進等の啓発活動を図っていく。ま	平成26年度から 平成30年度	広報紙、ホームページ等にごみの減量、資源化について掲載し住民の意識啓発を行っている。 エコステーションの稼働に伴い新たなごみ分別が始まったため、「資源物とごみの分別辞典」を作成し、各戸へ配布した。

		た、新施設の稼働（ごみ処理広域化）に伴い新しいごみ分別等が開始するため、ごみ分別事典等の配布を行い周知をしていく。		【益子町】 ましこ町民まつりにて啓蒙活動を実施している。
資源物集団回収奨励金制度	益子町 茂木町 市貝町 芳賀町	ごみの減量化、資源化を推進するため、資源物の集団回収に対して奨励金を交付していく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	自治会や学校単位の集団回収へ奨励金を交付し、ごみ減量化、資源化を推進している。 【益子町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 376 件の集団回収へ奨励金（1 kgあたり 7 円、地域通貨の場合 1 kgあたり 8 円）を交付した。 【茂木町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 236 件の集団回収へ奨励金（1 kgあたり 7 円）を交付した。 【市貝町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 337 件の集団回収へ奨励金（1 kgあたり 7 円）を交付した。 【芳賀町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 1,270 件の集団回収へ奨励金（1 kgあたり 10 円）を交付した。
ごみステーションの整備補助	益子町 茂木町 市貝町 芳賀町	ごみステーションの整備等への支援を行っていく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	ステーションの整備に補助金を交付している。 【益子町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 29 件の補助金（事業費の 1/2、上限 50,000 円）を交付した。 【茂木町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 28 件の補助金（限度額 50,000 円）を交付した。 【市貝町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 7 件の補助金（事業費の 1/2、上限 30,000 円）を交付した。 【芳賀町】 資源物の集団回収を実施する地区へ、平成 26 年度から平成 30 年度に計 4 件の補助金（事業費の 1/2、上限 200,000 円）を交付した。

委員会の発足等	構成市町	行政、事業者、住民団体（自治会、地区の美化委員等）が一体となっておみ問題について考えていくため、委員会を発足し時々の問題について検討していく。	平成 26 年度から 平成 30 年度	【真岡市】 平成 13 年から廃棄物減量等検討委員会を組織し、減量、適正な処理の推進等について、調査検討を行っている。 【益子町】 環境基本計画推進委員会を開催し、ゴミ問題について話し合いを行っている。 【茂木町】 各行政区の保健環境委員から組織される保健環境委員会において勉強会や先進地の視察を行い、ごみの減量化を検討している。
グリーン購入の徹底	構成市町	庁舎で使用する文具やコピー用紙等についてグリーン購入を徹底し、環境に配慮した物品の使用に努めていく。	平成 26 年度から 平成 30 年度	古紙パルプ配合率の高いコピー用紙を使用するなど、環境に配慮した物品の使用に努めている。
マイバッグ運動・レジ袋削減	構成市町	レジ袋を削減するためのポスター掲示やイベントでの啓発、マイバッグ運動等を行い、焼却対象ごみの減量化を図っていく。	平成 26 年度から 平成 30 年度	【真岡市】 レジ袋を削減し、マイバッグを普及促進するため、広報紙、ホームページ等に掲載している。 【益子町】 レジ袋を削減するため、広報ましこでマイバッグ運動等の啓発の記事を掲載している。 【茂木町】 マイバックを促進するため、行政区回覧での啓発、斡旋を行っている。
簡易包装の促進	茂木町	小売店等への簡易包装の協力要請について、検討・実施していく。	平成 26 年度から 平成 30 年度	現状の小売店の包装状況の把握を行い、要請方法について検討している。
環境活動取組店認定制度	益子町	ごみ減量化・リサイクル活動に取り組む店舗を環境活動取組店として認定し、ごみの減量化・リサイクル活動を推進していく。	平成 26 年度から 平成 30 年度	ごみの減量化・リサイクル活動を推進するため、ごみ減量化やリサイクル活動に取り組む店舗を計 42 件、環境活動取組店として認定した。
事業系ごみの適正搬入の指導	構成市町 芳賀広域	新施設において、構成市町と協力して搬入検査やチラシの配布等を行い、事業者への啓発・指導を進めていく。焼却対象ごみ等の搬入指導を徹底し、不適物や資源物の混入を防ぐこと	平成 26 年度から 平成 30 年度	芳賀地区エコステーションにおいて、事業系ごみの搬入時に搬入検査を行い、指導を実施している。 【真岡市】 月に 1t 以上もえるごみを排出している事業者にごみ減量を促す通知を送付した。

			により、ごみの減量化を図っていく。また、真岡市では、今後、多量排出事業者への指導を検討していく。		【茂木町】 チラシの配布等を行い、事業者への啓発、指導を実施している。
生 ご み ・ 剪 定 枝 等 の 減 量 化 ・ 資 源 化 等	生ごみ処理機等の普及促進	真岡市 益子町 市貝町 芳賀町	家庭等から発生する生ごみをリサイクルし、焼却対象ごみの減量化を図るため、生ごみ処理機等の購入補助制度を実施していく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	【真岡市】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 57 件の機械式生ごみ処理機購入補助金（補助率 1/2、上限 30,000 円）を交付した。 【益子町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 48 件の生ごみ処理機購入補助金（上限 30,000 円）を交付した。 【市貝町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 9 件の生ごみ処理機購入補助金（事業費の 1/3、上限 20,000 円）を交付した。 【芳賀町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 17 件の生ごみ処理機購入補助金（事業費の 1/2、上限 30,000 円）を交付した。
	家庭系生ごみの堆肥化の促進	構成市町	家庭系の生ごみをコンポスト容器やEM菌の住民モニター制度等により堆肥化し、焼却対象ごみの減量化、適正な自家処理、環境の浄化を図っていく。また、住民モニター制度については、適宜見直し等を実施していく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	【真岡市】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 209 件のコンポスト容器購入補助金（補助率 1/2、上限 6,000 円）を交付した。 【益子町】 EM菌の講習会を実施している。またホームページ上で堆肥化（コンポスト・EM菌・生ごみ処理機）の紹介を実施している。平成 26 年度から平成 30 年度に計 186 件のコンポスト容器購入補助金（密閉式・埋め込み式 2,000 円／1 個）を交付した。 【茂木町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 75 件のコンポスト容器購入補助金（5,000 円／個）を交付した。 【芳賀町】 平成 26 年度から平成 30 年度に計 17 件のコンポスト容器購入補助金（事業費の 1/2、上限 5,000 円）を交付した。

家庭系生ごみの分別回収	益子町 茂木町 芳賀町	家庭から排出される生ごみを分別回収し、たい肥化施設（民間施設含む）で資源化することにより、焼却対象ごみの減量化を図っていく。また、エリアの拡大についても検討していく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	<p>【益子町】 家庭系生ごみを分別回収し、民間の堆肥化施設での資源化を実施している。</p> <p>【茂木町】 茂木町有機物リサイクルセンター美土里館において、市街地の生ごみを分別収集し、たい肥化を行っている。また、市街地以外からも収集できるよう検討を行っている。</p> <p>【芳賀町】 住宅密集地や住宅団地を対象に、各家庭で排出された生ごみをごみステーションで収集し、町内にある堆肥化施設で堆肥化しごみの減量化を図っている。</p>								
事業系生ごみの減量化・資源化	構成市町	事業系（工業団地、公共施設等）の生ごみ、剪定枝、落ち葉等の減量化、資源化を推進していく。また、事業の見直し等を適宜実施していく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	<p>【益子町】 事業系生ごみを分別回収し、民間の堆肥化施設で資源化を実施している。</p> <p>【茂木町】 茂木町有機物リサイクルセンター美土里館において、事業系の生ごみを回収し、たい肥化を行っている。</p> <p>【市貝町】 小・中学校、保育所の生ごみを堆肥化し、焼却対象ごみの減量化を図っている。</p> <p>【芳賀町】 企業への立ち入り調査を行い、廃棄物のリサイクルに努めるよう要請している。</p>								
剪定枝等の分別回収	真岡市	（仮称）真岡市有機物リサイクルセンターを整備し、家庭および公共施設等から排出される剪定枝、落ち葉、刈草を分別回収し、たい肥化（資源化）することにより、焼却対象ごみの減量化を図っていく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	平成 27 年度より真岡市リサイクルセンターの整備を開始し、平成 30 年度に完成。平成 31 年度当初からの稼働開始に向け、真岡市内の全自治会に座談会を行った。								
粗大ごみの再生販売	構成市町 芳賀広域	新施設に搬入される粗大ごみのうち、まだ利用できる家具や自転車等を修理し再生販売することにより、再使用を推進していく。また、多くの粗大ごみが再使用できる収集方法等を検討していく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	<p>芳賀地区エコステーションでは平成 27 年度より、粗大ごみを修理し再生品として販売を実施し、リサイクル意識の向上とごみの減量化を図っている。</p> <p>再生品販売実績</p> <table border="0"> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>129 点</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>286 点</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>291 点</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>262 点</td> </tr> </table>	平成 27 年度	129 点	平成 28 年度	286 点	平成 29 年度	291 点	平成 30 年度	262 点
平成 27 年度	129 点											
平成 28 年度	286 点											
平成 29 年度	291 点											
平成 30 年度	262 点											

生きびんの資源化	真岡市	リターナブルビンである生きびん（一升ビン、4合ビン、2合ビン、ビールビン）を分別回収することによって、リターナブルビンの利用および再使用を促進していく。	平成26年度から 平成30年度	生きびんを分別回収し、再利用を図っている。 生きびん回収実績 H26：81,971 kg H27：82,558 kg H28：76,125 kg H29：68,717 kg H30：48,874 kg	
再使用の促進	真岡市 茂木町	住民が再使用に触れる機会を増やすため、フリーマーケット等のイベントの開催や支援を行い、その普及・促進に取り組んでいく。	平成26年度から 平成30年度	【真岡市】 大産業祭に環境展を開催し、フリーマーケットを開催している。 【茂木町】 子育て世代向けにこども服やくつの交換イベントを開催し、再利用が図られた。	
焼却灰等の資源化	構成市町 芳賀広域	新施設では、最終処分場の削減を図るため、溶融スラグを生成し焼却灰の資源化を行っていく。生成した溶融スラグは、路盤材等として有効利用していく。	平成26年度から 平成30年度	芳賀地区エコステーションでは、焼却灰（主灰）を溶融スラグ化し、路盤材として全量を販売している。 溶融スラグ販売実績 平成26年度 1,250.3 t 平成27年度 1,336.0 t 平成28年度 1,217.2 t 平成29年度 1,271.1 t 平成30年度 1,246.5 t	
紙類の資源化	家庭系の雑誌・雑紙の分別回収	真岡市	週刊誌やカタログ等の雑誌、菓子箱や包装紙等の雑紙を分別することによって、紙類の資源化およびごみ減量化を推進していく。	平成26年度から 平成30年度	紙類の資源化を図るため、広報紙、ホームページ等に雑紙の分別について掲載した。 ごみ減量化座談会を自治会単位で実施し、資源化の必要性を説明している。
	事業系の紙類の資源化	構成市町	事業系ごみの多くを占める紙類の減量化・資源化のために、民間企業の資源化施設等（シュレッダー車等）の活用を推進するよう指導等を行っていく。	平成26年度から 平成30年度	【茂木町】 小学校等のシュレッダーごみの回収を実施している。 【芳賀町】 企業への立ち入り調査を行い、廃棄物のリサイクルに努めるよう要請している。
小型家電等のリサイクル	構成市町 芳賀広域	新施設において、小型家電等をピックアップし、レアメタル類を含む有用な金属類の資源化を促進していく。	平成26年度から 平成30年度	芳賀地区エコステーションでは粗大ごみの手選別時に、小型家電をピックアップ回収し、小型家電リサイクル法の認定事業者へ小型家電を引渡し、資源化を図っている。 【真岡市】 市内7か所に回収ボックスを設置及びイベント回収も年2回実施している。	



				<p>【益子町】 町内 4 か所に回収ボックスを設置し常時回収をおこなっている。また、エコ土曜日を実施し、小型家電をピックアップ回収し、小型家電リサイクル法の認定事業者へ小型家電を引き渡し、資源化を図っている。</p> <p>【茂木町】 町内 5 か所に回収ボックスを設置及びイベント回収も年 2 回実施している。</p> <p>【市貝町】 年 2 回、市貝町役場にて小型家電 95 品目の無料回収を実施し、再資源化を図っている。</p> <p>【芳賀町】 年 3 回、役場駐車場で家電リサイクル法対象製品以外の家電品を回収し、金属類の資源化を促進している。</p>
拠点回収（店頭および公共施設等）	益子町 茂木町 芳賀町	スーパー等の店頭および公共施設等において、食品トレイ、牛乳パック、廃食油などの回収を実施し、焼却対象ごみの減量化・資源化を図っていく。また、事業の見直し等を適宜実施していく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	<p>【益子町】 スーパーの店頭でのトレイの回収を実施。公共施設等で廃食用油の回収を実施している。</p> <p>【茂木町】 スーパー店頭で使用済天ぷら油の回収や公共施設等でペットボトルキャップ、牛乳パック、白色トレイ等の回収を実施し、ごみの減量化を図っている。</p> <p>【芳賀町】 公共施設 4 か所で容器包装プラ等の回収、役場で廃食油の回収を実施している。</p>
熱回収	芳賀広域	新施設の高効率ごみ発電施設（熱回収施設）において、効率的な発電を行っていく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	<p>芳賀地区エコステーション熱回収施設発電実績</p> <p>平成 26 年度 10,373,910 kwh 平成 27 年度 10,658,190 kwh 平成 28 年度 11,009,500 kwh 平成 29 年度 11,340,310 kwh 平成 30 年度 11,689,800 kwh</p>
粗大ごみの戸別（個別）収集	益子町 茂木町 芳賀町	粗大ごみの戸別（個別）収集サービスを有料で実施し、廃棄物の適正処理、不法投棄防止と資源再生を促進し、生活環境保全を図っていく。	平成 26 年度 から 平成 30 年度	<p>【益子町】 粗大ごみの個別収集を有料で実施している。 隔月で実施 2,000 円/1 組</p> <p>【茂木町】 粗大ごみを運搬する手段のない高齢者世帯等について、有料で実施している。</p>

					【芳賀町】 月1回、1,000円/個で実施している。
	高齢者等のごみ出しの支援	真岡市 茂木町 芳賀町	高齢者等のごみ出しの支援策として、シルバー人材センター（真岡市）や配食サービスNPO（茂木町）との連携を図っていく。芳賀町においては、今後、支援策の検討等を行っていく。	平成26年度から 平成30年度	【茂木町】 高齢者等のごみ出しの支援策として、シルバー人材センターや配食サービスセンターとの連携を図っている。
処理施設の整備に関するもの	1	最終処分場の整備	芳賀広域		平成26年度から 平成28年度 平成26年度に一般廃棄物最終処分場「エコフォレスト」の建設に着工し、平成28年度に竣工。平成29年1月から埋立を開始している。 施設形式 クローズド型処分場 埋立容量 26,000 m <sup>3</sup>
	2	浄化槽の整備事業の推進	構成市町		平成26年度から 平成30年度 【真岡市】 平成26年度から平成30年度に計479基の合併浄化槽の設置に対し補助金を交付し、設置促進や単独浄化槽からの転換促進を図った。 【益子町】 平成26年度から平成30年度に計256基の合併浄化槽の設置に対し補助金を交付し、設置促進や単独浄化槽からの転換促進を図った。 【茂木町】 平成26年度から平成30年度に計154基の合併浄化槽の設置に対し補助金を交付し、設置促進や単独浄化槽からの転換促進を図った。 【市貝町】 平成26年度から平成30年度に計113基の合併浄化槽の設置に対し補助金を交付し、設置促進や単独浄化槽からの転換促進を図った。 【芳賀町】 平成26年度から平成30年度に計247基の合併浄化槽の設置に対し補助金を交付し、設置促進や単独浄化槽からの転換促進を図った。

	3	(仮称)真岡市有機物リサイクルセンター整備	真岡市		平成28年度から平成30年度	平成28年度に旧真岡市清掃センター解体工事を行った。平成29年度より同跡地に「真岡市リサイクルセンター」の建設工事を開始し、平成30年度に竣工した。平成31年度当初より真岡市リサイクルセンター稼働開始。剪定枝・落ち葉・刈り草のリサイクル施設 処理能力 4.6t/日 処理方式 堆肥化
	4	浄化槽の整備事業に伴う単独処理浄化槽撤去の推進	市貝町 芳賀町	単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進すべく単独処理浄化槽撤去費の助成を行う。	平成29年度から平成30年度	【市貝町】 平成29年度から平成30年度に計10件の単独処理浄化槽撤去費の助成(事業費の1/2、上限100,000円)を行い、合併浄化槽への転換を図った。 【芳賀町】 平成29年度から平成30年度に計17件の単独処理浄化槽撤去費の助成(事業費の1/2、上限100,000円)を行い、合併浄化槽への転換を図った。
施設整備に係る計画支援に関するもの	3 1	(仮称)真岡市有機物リサイクルセンター整備事業(事業番号3)に係る計画	真岡市		平成27年度から平成28年度	平成27年度に旧真岡市清掃センター解体工事設計業務を委託。また平成27年度から28年度にかけて真岡市リサイクル施設基本計画及び基本設計業務を委託。平成28年度に真岡市リサイクル施設地質調査業務を委託。
	3 2	芳賀地区広域行政事務組合し尿処理施設集約化に係る計画支援事業	芳賀広域		平成30年度から平成30年度	今後のし尿処理施設のあり方に関するし尿処理施設整備方針評価業務を委託。
その他		家電リサイクルに関する普及啓発	構成市町	家電リサイクル法に基づく処理の普及啓発	平成26年度から平成30年度	【真岡市】 ホームページやチラシ等により普及啓発を実施している。 【益子町】 家電リサイクルに関する普及啓発をごみカレンダー・HP・広報ましこ等で実施している。 【茂木町】 ホームページ、ごみカレンダーにより普及啓発を行っている。 【市貝町】 ホームページやごみカレンダーにより周知している。 【芳賀町】 ホームページやごみカレンダーにより周知している。

	不法投棄対策	構成市町	不法投棄防止のための監視強化を実施する。	平成 26 年度から 平成 30 年度	<p>【真岡市】 清掃監視員による市内循環パトロールや、立て看板等による対策を実施している。また、防犯カメラ設置の検討を進めている。</p> <p>【益子町】 不法投棄防止のため、監視員（嘱託職員）が全町的にパトロールを実施している。また、各地域に環境保全協力員を配置しパトロールを実施している。</p> <p>【茂木町】 不法放棄監視員を設置し、不法投棄物の回収やパトロールを実施している。</p> <p>【市貝町】 北部・中部・南部それぞれに監視員を配置し、巡回パトロール及び不法投棄物の回収を実施している。また、対策重点地区には監視カメラを設置し、抑制に努めている。</p> <p>【芳賀町】 不法投棄監視員を設置し、不法投棄物の回収やパトロールを実施している。</p>
	災害時の廃棄物処理に関する事項	構成市町 芳賀広域	周辺地域の自治体との連携体制の構築を図り、円滑かつ適正に処理できる体制の整備を強化していく。	平成 26 年度から 平成 30 年度	<p>芳賀地区エコステーションでは構成市町、運営事業者と協議を行い、災害廃棄物処理計画の作成を進めている。</p> <p>【真岡市】 近隣自治体との協議しながら、災害廃棄物処理計画の策定を進めていくことを検討している。</p> <p>【益子町】 災害廃棄物の適正処理、周辺自治体との連携体制の構築の検討をしている。</p> <p>【茂木町】 周辺自治体と連携し、災害廃棄物処理計画の策定を進めている。</p>

### 3 目標の達成状況に関する評価

#### 【ごみ処理】

##### ○排出量

事業系総排出量①は 9,429 トンで目標の 10,364 トンを達成することができたが、事業系総排出量②（し尿汚泥等除く）では 7,524 トンとなり目標の 7,314 トンを達成することができなかった。事業者向けに排出抑制を推進する積極的な施策を打ち出せず、減量化が進まなかったと考えられる。

家庭系ごみ総排出量は 28,867 トンで目標の 28,394 トンを達成することができなかった。家庭系ごみ量では、平成 26 年度からのごみ処理施設（芳賀地区エコステーション）の稼働に合わせ、もえるごみを有料化とした真岡市のみ家庭系総排出量が減っていて、以前より有料であった他 4 町では減量化が進まなかった。

全体の総排出量①は 38,959 トンで目標の 39,528 トンを達成することができたが、全体の総排出量②（し尿汚泥等除く）では 37,054 トンとなり目標の 36,478 トンを達成することができなかった。総排出量減量のためには事業系、家庭系共に実効性のある施策を行う必要がある。

##### ○再生利用量

再生利用量①及び再生利用量②（し尿汚泥等除く）について、住民の発生抑制の意識向上や商品包装材の軽装化による使用減、ペーパーレス化による排出量の減少など複数の要因により、直接資源化量及び総資源化量はどちらも目標へ届かなかった。しかし、ごみの総排出量が減少しているなか資源化量を増やすことができていることから、一定の成果が上がっていると考えられる。今後も、もえるごみに混入している資源物を減らすため、分別の更なる周知徹底を図り啓発活動等を一層推進していく必要がある。

##### ○熱回収量

再生利用量①及び再生利用量②（し尿汚泥等除く）の熱回収量（年間の発電電力量）は、どちらも目標値を大きく達成する発電ができた。これは効率的な熱回収施設の運転ができたことや、資源化量が目標に達しなかったため、中間処理量が増えたことが理由と考えられる。今後も、効率的な操炉計画、運転計画を作成し、熱回収量の確保を図っていく。

##### ○減量化量

減量化量①及び減量化量②（し尿汚泥等除く）はそれぞれ目標を達成することができた。操炉計画に基づく効率的な運転によるものと考えられる。

##### ○最終処分量

最終処分量①及び最終処分量②（し尿汚泥等除く）はどちらも目標を達成することができなかった。資源化量が目標に達しなかったため、中間処理量が目標よりも増え最終処分量が増加したと考えられる。

##### ○全体

芳賀地区全体として、ごみの総排出量及び資源化量が目標に届かず、埋立最終処分量が増えてしまった。最終処分量の削減は急務であり、ごみの減量化、分別の周知徹底、資源化の更なる推進が必要である。

#### 【生活排水処理】

汚水衛生処理率は 77.9%で目標の 83.8%を達成することができなかった。人口減少の中でも公共下水道人口の割合は増やすことができたが、単独浄化槽から合併浄化槽への転換が予定通り進まなかったことなどが影響し、未処理人口を減らすことができず汚水衛生処理率を上げることができなかったと考えられる。しかし、目標には達しなかったが現状に対しては改善されているため、各整備計画に基づき未処理から衛生処理への転換は確実に進行していると考えられる。

(都道府県知事の所見)

(ごみ処理)

- 事業系の排出量については、目標を達成しておらず、平成24年度と比較して排出量が増加していることから、特に具体的な改善方法を検討する必要がある。
- 家庭系の排出量については、平成24年度と比較して排出量が低減しているが、目標を達成していないので、更なる改善方法の検討が必要である。なお、令和元年度から真岡市で稼働を開始したリサイクル施設の効果も今後の検討の参考にするとよい。
- 再生利用量は直接資源化量及び総資源化量のいずれも目標を達成できていないため、再生使用を推進する方策を検討する必要がある。
- 減量化量については、目標を達成している。今後も処理施設の適切な運転を継続されたい。
- 最終処分量については、平成24年度を下回っているものの、目標は達成できていないため、更に廃棄物の排出抑制と再生利用量の増大を推進する方策を検討する必要がある。

(生活排水処理)

- 汚水衛生処理人口及び汚水衛生処理率が目標を達成しなかったのは、合併処理浄化槽の整備基数が計画より少なかったこと（達成率約83%）や農業集落排水施設への接続が計画よりも進まなかったことが原因として考えられる。

【真岡市】

指 標		現状（割合※1） （平成24年度）	目標（割合※1） （令和元年度）	実績（割合※1） （令和元年度）	実績/目標	
排出量	事業系	総排出量①	－ トン	6,555 トン	5,766 トン	88.0%
		総排出量②（し尿汚泥等除く）	4,459 トン	4,417 トン（-0.9%）	4,727 トン（6.0%）	107.0%
		1事業所当たりの排出量①	－ トン/事業所	1.81 トン/事業所	1.77 トン/事業所	97.8%
		1事業所当たりの排出量②	1.26 トン/事業所	1.20 トン/事業所（-4.8%）	1.45 トン/事業所（15.1%）	120.8%
	家庭系	総排出量	19,740 トン	18,522 トン（-6.2%）	17,982 トン（-8.9%）	97.1%
		1人当たりの排出量	200.7 kg/人	160.1 kg/人（-20.2%）	178.1 kg/人（-11.3%）	111.2%
	自家処理量		0 トン	0 トン	0 トン	—
	合計	排出量①	－ トン	25,077 トン	23,748 トン	94.7%
排出量②（し尿汚泥等除く）		24,199 トン	22,939 トン（-5.2%）	22,709 トン（-6.2%）	99.0%	
再生利用量①	直接資源化量	－ トン（-）	4,645 トン（18.5%）	3,662 トン（15.4%）	78.8%	
	総資源化量	－ トン（-）	6,274 トン（25.0%）	4,952 トン（20.9%）	78.9%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	4,354 MWh	7,212 MWh	165.6%	
再生利用量② （し尿汚泥等除く）	直接資源化量	3,119 トン（12.9%）	4,645 トン（20.2%）	3,662 トン（16.1%）	78.8%	
	総資源化量	3,557 トン（14.7%）	6,162 トン（26.9%）	4,904 トン（21.6%）	79.6%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	3,884 MWh	6,832 MWh	175.9%	
減量化量①	中間処理による減量化量	－ トン（-）	17,895 トン（71.4%）	17,846 トン（75.1%）	99.7%	
減量化量② （し尿汚泥等除く）	中間処理による減量化量	18,592 トン（76.8%）	15,967 トン（69.6%）	16,912 トン（74.5%）	105.9%	
最終処分量①	埋立最終処分量	－ トン（-）	908 トン（3.6%）	950 トン（4.0%）	104.6%	
最終処分量② （し尿汚泥等除く）	埋立最終処分量	2,050 トン（8.5%）	810 トン（3.5%）	893 トン（3.9%）	110.2%	
集団回収量	地域での集団資源回収量	0 トン（-）	0 トン —	0 トン —	—	

※1 排出量、集団回収量は現状に対する増減割合、直接資源化量・減量化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量（自家処理量を除く）+集団回収量に対する割合を記載。

【益子町】

指 標		現状（割合※1） （平成24年度）	目標（割合※1） （令和元年度）	実績（割合※1） （令和元年度）	実績/目標	
排出量	事業系	総排出量①	－ トン	1,573 トン	1,308 トン	83.2%
		総排出量②（し尿汚泥等除く）	1,304 トン	1,250 トン（-4.1%）	1,013 トン（-22.3%）	81.0%
		1事業所当たりの排出量①	－ トン/事業所	1.29 トン/事業所	0.96 トン/事業所	74.4%
		1事業所当たりの排出量②	1.10 トン/事業所	1.00 トン/事業所（-9.1%）	0.72 トン/事業所（-34.5%）	72.0%
	家庭系	総排出量	5,292 トン	3,756 トン（-29.0%）	3,796 トン（-28.3%）	101.1%
		1人当たりの排出量	189.6 kg/人	127.8 kg/人（-32.6%）	139.0 kg/人（-26.7%）	108.8%
	自家処理量		188 トン	251 トン（33.5%）	254 トン（35.1%）	101.2%
	合計	排出量①	－ トン	5,580 トン	5,358 トン	96.0%
		排出量②（し尿汚泥等除く）	6,784 トン	5,257 トン（-22.5%）	5,063 トン（-25.4%）	96.3%
	再生利用量①	直接資源化量	－ トン（-）	794 トン（14.2%）	712 トン（13.3%）	89.7%
総資源化量		－ トン（-）	1,990 トン（32.5%）	1,666 トン（28.8%）	83.7%	
熱回収量（年間の発電電力量）		－ MWh	957 MWh	1,576 MWh	164.7%	
再生利用量② （し尿汚泥等除く）	直接資源化量	520 トン（7.7%）	794 トン（15.1%）	712 トン（14.1%）	89.7%	
	総資源化量	1,447 トン（19.9%）	1,974 トン（34.0%）	1,656 トン（30.2%）	83.9%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	886 MWh	1,468 MWh	165.7%	
減量化量①	中間処理による減量化量	－ トン（-）	3,932 トン（70.5%）	3,905 トン（72.9%）	99.3%	
減量化量② （し尿汚泥等除く）	中間処理による減量化量	4,987 トン（73.5%）	3,641 トン（69.3%）	3,633 トン（71.8%）	99.8%	
最終処分量①	埋立最終処分量	－ トン（-）	200 トン（3.6%）	203 トン（3.8%）	101.5%	
最終処分量② （し尿汚泥等除く）	埋立最終処分量	832 トン（12.3%）	184 トン（3.5%）	191 トン（3.8%）	103.8%	
集団回収量	地域での集団資源回収量	670 トン（-）	793 トン（18.4%）	671 トン（0.1%）	84.6%	

※1 排出量、集団回収量は現状に対する増減割合、直接資源化量・減量化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量（自家処理量を除く）+集団回収量に対する割合を記載。



【茂木町】

指 標		現状（割合※1） （平成24年度）	目標（割合※1） （令和元年度）	実績（割合※1） （令和元年度）	実績/目標	
排出量	事業系	総排出量①	－ トン	798 トン	801 トン	100.4%
		総排出量②（し尿汚泥等除く）	625 トン	598 トン（-4.3%）	647 トン（3.5%）	108.2%
		1事業所当たりの排出量①	－ トン/事業所	0.87 トン/事業所	0.97 トン/事業所	111.5%
		1事業所当たりの排出量②	0.57 トン/事業所	0.55 トン/事業所（-3.5%）	0.69 トン/事業所（21.1%）	125.5%
	家庭系	総排出量	2,495 トン	2,050 トン（-17.8%）	2,624 トン（5.2%）	128.0%
		1人当たりの排出量	121.9 kg/人	101.8 kg/人（-16.5%）	172.2 kg/人（41.3%）	169.2%
	自家処理量		0 トン	0 トン	0 トン	—
	合計	排出量①	－ トン	2,848 トン	3,425 トン	120.3%
排出量②（し尿汚泥等除く）		3,120 トン	2,648 トン（-15.1%）	3,271 トン（4.8%）	123.5%	
再生利用量①	直接資源化量	－ トン（-）	830 トン（29.1%）	697 トン（20.4%）	84.0%	
	総資源化量	－ トン（-）	1,188 トン（39.5%）	1,025 トン（28.7%）	86.3%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	422 MWh	976 MWh	231.3%	
再生利用量② （し尿汚泥等除く）	直接資源化量	928 トン（29.7%）	830 トン（31.3%）	697 トン（21.3%）	84.0%	
	総資源化量	1,169 トン（35.4%）	1,178 トン（41.9%）	1,018 トン（29.8%）	86.4%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	378 MWh	920 MWh	243.4%	
減量化量①	中間処理による減量化量	－ トン（-）	1,735 トン（60.9%）	2,422 トン（70.7%）	139.6%	
減量化量② （し尿汚泥等除く）	中間処理による減量化量	1,826 トン（58.5%）	1,555 トン（58.7%）	2,282 トン（69.8%）	146.8%	
最終処分量①	埋立最終処分量	－ トン（-）	88 トン（3.1%）	126 トン（3.7%）	143.2%	
最終処分量② （し尿汚泥等除く）	埋立最終処分量	303 トン（9.7%）	78 トン（2.9%）	119 トン（3.6%）	152.6%	
集団回収量	地域での集団資源回収量	178 トン（-）	163 トン（-8.4%）	148 トン（-16.9%）	90.8%	

※1 排出量、集団回収量は現状に対する増減割合、直接資源化量・減量化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量（自家処理量を除く）+集団回収量に対する割合を記載。

【市貝町】

指 標		現状（割合※1） （平成24年度）	目標（割合※1） （令和元年度）	実績（割合※1） （令和元年度）	実績/目標	
排出量	事業系	総排出量①	－ トン	494 トン	549 トン	111.1%
		総排出量②（し尿汚泥等除く）	373 トン	325 トン（-12.9%）	376 トン（0.8%）	115.7%
		1事業所当たりの排出量①	－ トン/事業所	1.04 トン/事業所	1.29 トン/事業所	124.0%
		1事業所当たりの排出量②	0.77 トン/事業所	0.67 トン/事業所（-13.0%）	0.85 トン/事業所（10.4%）	126.9%
	家庭系	総排出量	2,060 トン	1,847 トン（-10.3%）	1,994 トン（-3.2%）	108.0%
		1人当たりの排出量	133.7 kg/人	118.6 kg/人（-11.3%）	139.0 kg/人（4.0%）	117.2%
	自家処理量		141 トン	139 トン（-1.4%）	3 トン（-97.9%）	2.2%
	合計	排出量①	－ トン	2,480 トン	2,546 トン	102.7%
排出量②（し尿汚泥等除く）		2,574 トン	2,311 トン（-10.2%）	2,373 トン（-7.8%）	102.7%	
再生利用量①	直接資源化量	－ トン（－）	339 トン（13.7%）	298 トン（11.7%）	87.9%	
	総資源化量	－ トン（－）	670 トン（27.2%）	596 トン（22.1%）	89.0%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	416 MWh	805 MWh	193.5%	
再生利用量② （し尿汚泥等除く）	直接資源化量	335 トン（13.0%）	339 トン（14.7%）	298 トン（12.6%）	87.9%	
	総資源化量	626 トン（23.9%）	661 トン（28.8%）	590 トン（23.4%）	89.3%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	379 MWh	742 MWh	195.8%	
減量化量①	中間処理による減量化量	－ トン（－）	1,710 トン（69.0%）	1,997 トン（78.4%）	116.8%	
減量化量② （し尿汚泥等除く）	中間処理による減量化量	1,720 トン（66.8%）	1,558 トン（67.4%）	1,835 トン（77.3%）	117.8%	
最終処分量①	埋立最終処分量	－ トン（－）	87 トン（3.5%）	102 トン（4.0%）	117.2%	
最終処分量② （し尿汚泥等除く）	埋立最終処分量	277 トン（10.8%）	79 トン（3.4%）	96 トン（4.0%）	121.5%	
集団回収量	地域での集団資源回収量	190 トン（－）	126 トン（-33.7%）	151 トン（-20.5%）	119.8%	

※1 排出量、集団回収量は現状に対する増減割合、直接資源化量・減量化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量（自家処理量を除く）+集団回収量に対する割合を記載。

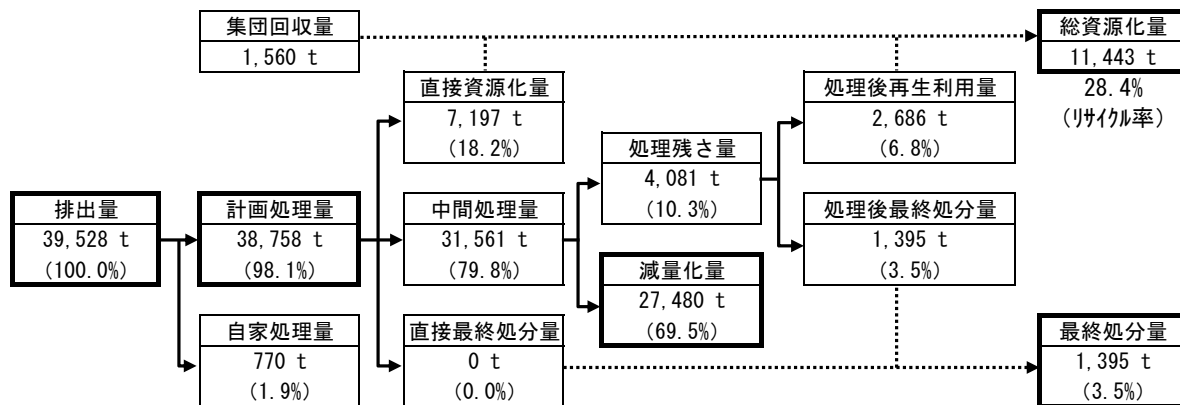
【芳賀町】

指 標		現状（割合※1） （平成24年度）	目標（割合※1） （令和元年度）	実績（割合※1） （令和元年度）	実績/目標	
排出量	事業系	総排出量①	－ トン	944 トン	1,005 トン	106.5%
		総排出量②（し尿汚泥等除く）	735 トン	724 トン（-1.5%）	761 トン（3.5%）	105.1%
		1事業所当たりの排出量①	－ トン/事業所	1.24 トン/事業所	1.41 トン/事業所	113.7%
		1事業所当たりの排出量②	0.95 トン/事業所	0.92 トン/事業所（-3.2%）	1.04 トン/事業所（9.5%）	113.0%
	家庭系	総排出量	2,492 トン	2,219 トン（-11.0%）	2,471 トン（-0.8%）	111.4%
		1人当たりの排出量	115.4 kg/人	104.1 kg/人（-9.8%）	133.0 kg/人（15.3%）	127.8%
	自家処理量		405 トン	380 トン（-6.2%）	406 トン（0.2%）	106.8%
	合計	排出量①	－ トン	3,543 トン	3,882 トン	109.6%
排出量②（し尿汚泥等除く）		3,632 トン	3,323 トン（-8.5%）	3,638 トン（0.2%）	109.5%	
再生利用量①	直接資源化量	－ トン（-）	589 トン（16.6%）	459 トン（11.8%）	77.9%	
	総資源化量	－ トン（-）	1,321 トン（36.3%）	1,072 トン（27.6%）	81.2%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	538 MWh	1,080 MWh	200.7%	
再生利用量② （し尿汚泥等除く）	直接資源化量	582 トン（16.0%）	589 トン（17.7%）	459 トン（12.6%）	77.9%	
	総資源化量	1,135 トン（31.0%）	1,308 トン（38.2%）	1,065 トン（29.2%）	81.4%	
	熱回収量（年間の発電電力量）	－ MWh	490 MWh	991 MWh	202.2%	
減量化量①	中間処理による減量化量	－ トン（-）	2,208 トン（62.3%）	2,684 トン（69.1%）	121.6%	
減量化量② （し尿汚泥等除く）	中間処理による減量化量	2,174 トン（59.9%）	2,011 トン（60.5%）	2,455 トン（67.5%）	122.1%	
最終処分量①	埋立最終処分量	－ トン（-）	112 トン（3.2%）	135 トン（3.5%）	120.5%	
最終処分量② （し尿汚泥等除く）	埋立最終処分量	353 トン（9.7%）	102 トン（3.1%）	127 トン（3.5%）	124.5%	
集団回収量	地域での集団資源回収量	435 トン（-）	478 トン（9.9%）	415 トン（-4.6%）	86.8%	

※1 排出量、集団回収量は現状に対する増減割合、直接資源化量・減量化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量（自家処理量を除く）+集団回収量に対する割合を記載。

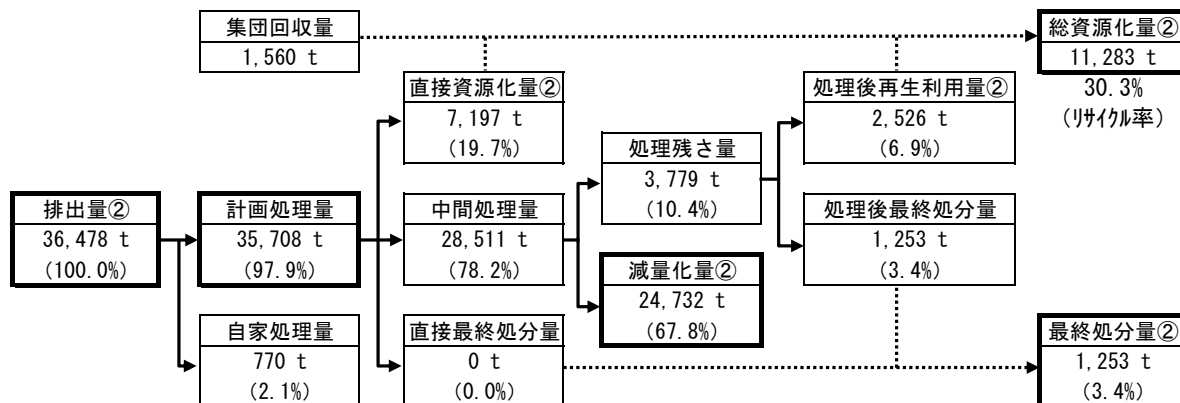
平成31年度 目標フロー

【①し尿処理汚泥、下水汚泥等を含む場合】



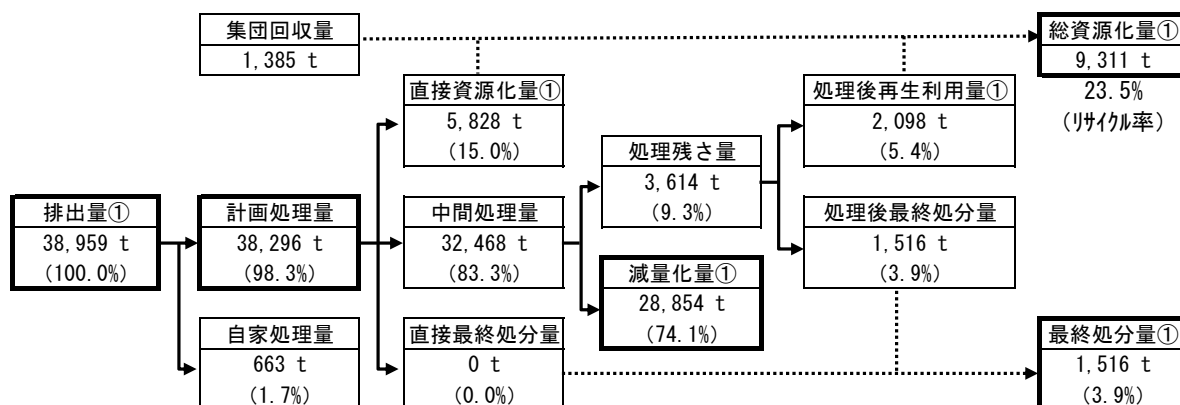
注記：リサイクル率 = (直接資源化量+処理後再生利用量+集団回収量) / (計画処理量+集団回収量)

【②し尿処理汚泥、下水汚泥等を除く場合】



平成31年度（令和元年度） 実績フロー

【①し尿処理汚泥、下水汚泥等を含む場合】



【②し尿処理汚泥、下水汚泥等を除く場合】

